



人間・環境学研究科 吉田純教授

ACADE見IC

社会学の研究をしている吉田教授。社会学の理論的概念である「公共圏」をキーワードに、変容するコミュニケーションや情報化社会について考察を行っている。

また、吉田教授が全学向けに開講する「社会学Ⅱ・Ⅳ」では、授業時間中でもTwitterで自由に質問や感想を吐くことができるという珍しい授業形態を取り入れている。執筆者はこれに興味を持って、教授の講義での取り組みについてもお話をうかがった。(あさげ)

略歴

- 1984年 京都大学教育学部卒業
- 1990年 京都大学文学部助手 (2001年3月まで)
- 2000年 京都大学博士 (文学)
- 2002年 京都大学大学院 人間・環境学研究科助教授
- 2014年 京都大学大学院 人間・環境学研究科教授

研究について

—教授の研究について教えてください—
研究の内容なんですけど、大学時代からの経緯を話したほうがよいと思うのでそこから話します。

大学院の頃は、ユルゲン・ハーバマスというドイツの社会哲学者の学説の研究をしていました。ハーバマスの思想は、人間のコミュニケーションの合理性と、それが行われる場所としての「公共圏」と呼ばれる社会空間が中心です。「公共圏」というのは西洋近代の理想論的な概

念なんです。これとは別に少し後になってから「親密圏」という概念が出てきて、今では「公共圏」の対概念としてよく使われますね。理想論的な概念によって現実を批判していくというのが基本的なスタンスであり、僕もこのスタンスで研究を続けています。

関心の出発点はこういった思想史的なところでした。今は理論研究そのものよりも、現代の情報社会における公共性の問題を中心に研究しています。

公共圏と親密圏

公共圏…共通の関心を持つ人々が社会問題について討論する空間
親密圏…具体的な人そのものに対する関心によって作られる空間

吉田教授：少し砕けた言い方をすると、「公共圏」は真面目な議論をする空間で、「親密圏」はお互いに楽しく感情的なつながりあいを共有する空間ですね。

—社会学における情報社会に関する研究について説明をお願いします—

「公共圏」「親密圏」とインターネットの関係は古くから議論されていたんですね。その中で、インターネットを「公共圏」として捉えるのはやはり理想論的過ぎると。むしろ現実には「親密圏」に近く、利用者はコミュニケーション自体を楽しんでいるという見方が主流ですね。

象が強いんです。SNSも基本的には「親密圏」で、社交の空間として機能していると思うんです。ただ「親密圏」への指向性が強すぎるため、悪影響が出ている側面もあります。ネット上では「公共圏」と「親密圏」のバランスが重要で、「親密圏」だけを目指すのではうまくいかず、「公共圏」への一定の指向性が必要なんです。

持ち込まれますよね。そのため問題も複雑になっていて、「ソーシャルメディアハラスメント」のように、職場や学校などの人間関係がSNS上での嫌がらせに繋がるケースが多々あるんです。

—SNSを含めたネット社会の今後の展望についてはどう考えていますか？—

問題が複雑化する中で、お互いに気持ちよくコミュニケーションをするためにどんなルールを作ればいいのか、ますます重要になってくると思います。このルールを設けるということが、まさに「公共圏」の重要なテーマでもあるんです。

—現代のネット社会に対する教授の考えを教えてください—

「公共圏」と「親密圏」の問題はSNSが普及して以降大きく再浮上している印

—SNSの問題が持つ特徴は何ですか？—

SNSを中心とする今のネット空間は、従来のネット空間よりも密接に現実と関わり合っていて、現実の人間関係がよく

講義「社会学」について

—社会学の講義で学生の理解を助けるような工夫は何かされていますか？—

学生諸君にとって実感のある具体例をできるだけ多く使うということです。社会学の理論は対象とする範囲が広く抽象度がすごく高いので、理論の説明だけでは絶対に伝わらないと思うんです。だから予習で「こういう問題の具体例を書いてください」というテーマに答えてもらうことで、学生諸君にとってわかりやすい具体例を把握できるので、それを

授業に取り入れています。今はPandAを使っていますが、以前は自前のサイトを使っていました。Twitterも同じ理由で導入したんです。

—なぜTwitterを選んだのですか？—

Twitterはリアルタイム性というのが非常に重要なんです。もちろん講義の中でグループディスカッションを導入するのも一つの方法なんですけど、そうするとやはり講義の部分が内容的に薄くなっ

てしまうので、僕ももったいない気がしています。講義内容を質・量ともに確保しながらリアルタイムの学生の反応を見たいという、ちょっとぜいたくな欲求があって、そのためにはTwitterを利用するのも一つの手かなと思ったんです。

—Twitterの効果はありましたか？—

やはり学生諸君の反応がつかめると、興味を持ってもらえるポイントがわかるようになりましたね。中には割と軽い感想も多いんですけど、ちょっとゆるめのツイートが含まれることで、むしろ場が活性化するような気がしますね。

京大生へのメッセージ

—「京大にしかない雰囲気」を感じることはありますか？—

たとえば卒業式で京大生がコスプレしていることについても、いろいろ議論はありますが、京大全体であれを許容する雰囲気はすごく重要だと思いますね。

日本では、社会全体が逸脱することに対して不寛容になっているように見えます。大学という場は逸脱に対して寛容であるべきで、それが思考の自由さを確保するための条件でもあると思いますね。

—最後に京大生に向けてメッセージをお願いします—

学生時代の4年ないし6年というのはすごく特権的な時間で、要するに何をやってもいいわけですよ。学生だから勉強するのは前提なんですけど、勉強の仕方にしても真面目に授業に出てテキストを読んで課題をやるという受身だけはおもしろくないでしょ？

自分が何をやりたいのか、自分にとって本当に大事な問題は何なのか発見して

いくのが、学生時代の一番の意義だと思います。そのためにはできるだけ関心を広げることです。そこで重要になるのは人間関係なんです。ただし、人間関係といっても先ほどの「親密圏」の話のように、仲のよい関係だけを求めるのはすごく閉塞的になってしまいます。

自分とは違った考えの持ち主も含めて、できるだけ自分にとって重要な示唆を与えてくれるような人、自分にとって刺激になるような人を見つけるというのが重要かなと思います。

—ありがとうございました—

はみだし
すてーじ

雨が降ると癖毛が猛カール
⇒「皆が読むと僕らが儲かる」ってそんなわけないか。

(工・院 マクロファージ)
(by 財布が軽い人；編)

はみだし
すてーじ

新歓で新入生に「ボキャ貧ですか？」って言われました。
⇒泣いて泣いて 泣きやんだら……

(工・2 かじきゅあ)
(怒ってもいいんですよ(TwT)b；編)